

第4回「福島県イノベーション・コースト構想の 具体化に関する県・市町村検討会議」議事概要

○日 時：平成27年3月25日（水） 13：30～15：20

○場 所：ホテルサンルートプラザ福島「芙蓉」

1 開 会

2 挨 拶

【福島県企画調整部長】

- ・イノベーション・コースト構想県・市町村検討会議の2つの分科会、エネルギー関連産業分野と農林水産業分野について実施しているが、先般、両分科会で第1次とりまとめを行った。本日の会議では、その内容を中心にご議論いただきたい。
- ・本日の議論を踏まえ、必要があれば報告書を修正した上で、イノベーション・コースト構想推進会議へ報告していく。
- ・前回のイノベーション・コースト構想推進会議の中で、首長の皆様から、市町村と連絡を密に取ってという話があったので、積極的にご発言いただき、首長さんにもご報告していただきたい。

3 プレゼンテーション

(1) イノベ構想の具体化に向けて川内村から2つの提案について

資料1を【川内村】から説明

[福島県企画調整部長]

- ・2つのご提案があった。
- ・一つ目が農林分野における産学官共同研究室等の誘致。現在、いろいろな研究機関が入ってきていて、森林除染等の研究を引き続きやっていくような研究室みたいなものがあればよいという話。昨年1月からの議論を踏まえてというよりは、今回初めてご提案される内容ということでしょうか。
- ・2つ目は、浜通り全体でイノベーション・コースト構想関連の拠点が展開される中で、そのスタッフ、研究者あるいは学生等が居住環境として川内村を基点としたまちづくりを進めるという話。
- ・川内村からのご提案についてご意見あれば。

[福島大学]

- ・それぞれの町村でこのような構想を考えるということは、私としては望んでいたこと。皆様から提案いただくことはすごくいいことだと感じている。
- ・また、いろいろな大学等が活動をする拠点の整備についてご提案いただいていることに感謝したい。
- ・復興という視点からすると、村内の方々がどのように働くかというイメージも大事。外から来る人と村内の人のコラボレーションなどを書き込んでいただければありがたい。
- ・農学の設置については、来年度の検討事項として文部科学省から調査費がついている。農学という新たな視点になるので、我々としても悩んでいるところだが、県内の新しい農業の種になるようなところに福島大学としても貢献していく必要があると思っている。
- ・コラボレーションを増進するようなご提案・ご相談をいただければと思う。

4 協議・報告事項

(1) エネルギー関連産業検討分科会の第1次とりまとめ(案)についての主な意見

[いわき明星大学]

- ・再生可能エネルギー目標である2040年に100%は、太陽と風力だけでは難しい。そういう点では、水力やバイオマスなど細かく地域にあった提案が出たのはいいこと。
- ・いろんなことを国が支援をしてくれるいいチャンス。
- ・唯一欠けているのは、冷熱発電。それから ORC (オーガニックランキンサイクル) といって、普通だと蒸気タービンを回す間に水を入れて行うため沸点が高い温度でないと出来ないため、ものすごい燃焼が高いが冷熱で LNG を持ってくるのと-200℃ぐらいのものでいくと今度は室温が高温側に上がってくるのを少し前まで実施していたが、現実にはやろうとする機関が日本では無かった。やれるようになると温度差が何百℃もなくとも、ある程度小さいところでこじんまりした発電というのも一つのモデル地域になると思う。
- ・だが、それらを全て足しても2040年100%は簡単にはいかない。
- ・イノベーション・コーストという良い機会を利用して、いろいろなチャレンジをするのに非常に興味深い提案だと思う。

[新地町]

- ・環境産業共生型復興まちづくりとして、新地駅周辺に企業と相談をしながら新地町としての協議会等を作りたいということで進めている。

- ・熱導管に対する助成が全くない。何らかの助成措置があれば企業も含め弾みがつくのではないか。

[いわき市]

- ・沿岸部中心に新しいまちづくりを進めるなかで、エネルギーなどのスマートコミュニティの導入を積極的に活用できるよう検討していく。

[双葉町村会]

- ・(2ページ) 3つの柱と10のプロジェクト、1つ目の原発にどれだけの生産出力があったのか、また、それに見合う新たなエネルギーとして数値目標のようなものを掲げてはいかがか。
- ・供給県としての電力源として、小水力発電は出揃うのか疑問を感じる。各ダムの維持管理程度の出しか至っていない。現に今、何カ所かやっているがそれほど大きな出力に至っていないので、なかなかこれを新しい研究開発の結果と言っても高発電は難しいのではないか。
- ・エネルギーに限らず地域産業・関連産業への誘発について、もう少し配慮が必要。動力源としてのエネルギーを地域産業に供給しようという記載になっているが、そうではなく、エネルギープラントを作る技術、そういったことも地域内で創出できるようなそんな構造も検討していただけるとよりエネルギーと産業の関連性が出てくるのではないか。

[エネルギー課]

- ・小水力発電については、本プロジェクトで率先導入の例の1つとして取り上げた。
- ・これに限らず、小水力の例は色々あるかと思うがまずは、県有施設を活用した取組を積極的に喫緊の課題として取り組んでいきたいということでとりまとめさせていただいた。
- ・県有施設以外での利用については、引き続き検討していく。

(2) 農林水産分野検討分科会の第1次とりまとめ(案)についての主な意見

[企画調整部長]

- ・何処で、誰が等、具体的な動きについて。
- ・研究会で報告されていた非食用作物、資源作物への展開、水産業の陸上養殖の話がイノベ構想にある。それに関する検討の状況は。

[農林企画課長]

- ・環境制御型園芸関係では 27 年度大熊町やいわき市で予定している。非食用では川俣町で環境制御技術を用いた種苗生産を行う等、見通しがつくものについては、書き込んだが、除染の関係で示せないところもあり、それらについてはこれから検討していく中でより具体的に努めていきたい。
- ・非食用と陸上養殖については、技術的な問題や採算性等、まだまだここに書き込めるような状況にはなっていない。非食用作物については、フラワー・コースト構想プロジェクト、陸上養殖については、水産研究拠点プロジェクトにおいて検討をしてきたところ。

[企画調整部長]

- ・積み残しの箇所については、できるだけ詰めてもらうことが大事。
- ・推進会議の際に首長さん達から「構想ばかりでつち音が聞こえてこない」といった意見があり、何処で、誰がという部分を回転させていきたい。私も検討会議を運営しているのでしっかりやっていきたい。

[田村市]

- ・林業関係でバイオマス発電や CLT の導入について検討したい。他の市町村も同じだと思うが、森林が大部分を占めている。森林が荒廃していると環境にもよくない。

[南相馬市]

- ・現在、資源作物の取組を実施。市の一般財源で農家を支援している、今後、資源作物についても検討していただき国の支援も求めてほしい。
- ・実際買い手の側の値段からすると倍ぐらいの生産コストがかかる。市では 1 / 2 を目標にしたいと頑張っている。作物はデントコーン。9 千円程度生産に要するが 5 千円以下にならないと買い取ってもらえない。

[川俣町]

- ・野菜苗を生産する会社で、本会社は苗へのワクチン接種の技術を持ち合わせている会社（株式会社）が具体的に進めているところ。現在、敷地について造成中。10 月の操業開始に向けて準備を進めている。
- ・本会社は東日本の拠点工場を目指している。最終的には 10 年間で 100 人規模の雇用が見込める。
- ・会社は愛媛県の種苗会社が本県で法人を設立する。

[広野町]

- ・津波被災地区での農業がなかなか難しい。植物工場などの新たな農業について検討をしていきたい。実現には至っていないが 27 年度中には詰めていきたい。

[檜葉町]

- ・町でも復興計画の中で植物工場の導入を掲げている。
- ・南相馬市や川内村の植物工場も視察させていただいたが、販路拡大や栽培技術、コストなど課題は多い。ノウハウが全くないので県に御支援をいただきたい。

[富岡町]

- ・当町では線量の問題があり、農業については一番難しいのでまとめるにあたっては非常に苦労したのではないかと思う。
- ・環境制御型、もしくはフラワー・コーストの見せる農業として、土を極力使わない、科学的な安全性、心理学的な安全性の両面でどのように農業を再興していくかを考えている。
- ・イノベのまとめ方としては、進めるべき事項はあるが、安全性をアピールすることや福島県をバックアップするような企業とタックを組み確立した販売経路などを明記した方がよろしいのではないか。

[双葉町]

- ・先日 3 月 12 日長期ビジョンが示されたところ。
- ・ビジョン構想の中では植物工場や施設園芸、再生可能エネルギーを使った新たな植物栽培が入っている。
- ・植物工場と併せて 6 次化産業も合わせて展開していくこととしている。
- ・危惧しているのは、時間軸。双葉町は他の市町村と比べると遅れがちなので、取り残されることがないように配慮いただきたい。

[浪江町]

- ・酒田地区において水稻栽培の実験を行ったが、これからの展開をどうしていくか課題。
- ・除染が進んでいくと除草の部分、農地の管理が重い課題として出てくる。
- ・水田を持っている農業者は多いが、現在避難している状況でなおかつ、管理をしている人がどれだけいるかというところかなり限られている状況の中で、現在、復興組合を立ち上げて管理しているが絶対数が足りない。
- ・プロジェクトに掲げられている除草ロボットや自動走行付きトラクターな

どそういった技術の活用について期待をしている。

- ・また、施設野菜では放射性物質の影響が懸念されるため、ハウス栽培に切り替えトルコギキョウの生産を行い、大田市場への出荷を実施した。
- ・ICTを活用した農業も、支援をいただきながら取り組んでいきたい。

[葛尾村]

- ・3月23日に中心拠点整備計画検討が終わって、これから構想策定に向け進めていくこととしており、この中において花き栽培の研修施設を作る項目を位置づけている。現在、担当課で内容を詰めているところ。

[新地町]

- ・エネルギーと農業を結びつけようと考えている。
- ・LNG等を利用した電気と熱とCO2を農業に活かさないかということで企業を含めた話し合いを行っている。
- ・実証事業等からは始めるしか方法はないかと思っており、構想実施の際、支援をいただきたい。

[飯舘村]

- ・現実には、まだ村内の除染が終わらず、村内での営農をどうするかというところまでは至っていない。
- ・危惧するのは担い手の問題。帰村の意向を見ると帰りたい人が1/3、帰らない人が1/3、どうしたらいいかわからない人が1/3の状況が続いている。農家の担い手が不足してくる。その際、保全されない農地がたくさん出てくる時にどのように管理していくか。
- ・また、若い方の働き方に関して、イノベ構想の中に浜通り地区の中に農業の株式会社を入れてみるのはどうか。
- ・木質バイオマス関係。森林組合から声が上がっており、平成27年度から検討を始めるところ。

[東北農政局]

- ・とりまとめられた8つのプロジェクトはいずれも技術シーズはあり、これから実証、あるいは改良等の段階に入っているものがほぼ全て。
- ・担い手の話も出たが、実際にこういった技術をやってみて周りを見せていくことによる効果も大事。
- ・農政局としても実現可能なものから利用できる制度や事業を紹介するなどして、実現に向け支援していきたい。

(3) 3つの分野別検討会における県からの提案

資料4を【事務局】から説明

5 意見交換

[内閣府原子力災害現地対策本部]

- ・まず、ここまでまとめていただいたことに感謝。
- ・分野別検討会への提案については、できる限りくみ取れるようやっていきたい。
- ・農林水産の関係ではロボットの話がいくつか出たが、ロボットテストフィールドでも実証できるようなものがあれば、そういったことも視野にご検討いただきたい。
- ・再エネの関係、新地町の協議会関係でまた情報をいただければフォローしていきたい。
- ・全体としては、これをさらに具体化して、地元で担い手を見つけていくことが一番大事。
- ・国の方の3つ分科会は最終回まで終わっている。来週を目処にまとめて対外的に発表したい。

[福島工業高等専門学校]

- ・高専として農業も含めて、いろんな面で協力できると思っているので、ご相談いただきたい。
- ・資料の訂正(P7)について。高専は高等教育機関に含める整理をしていたいただきたい。

[福島復興局]

- ・農業の中でもロボットが出てきているが、そのロボット生産を福島で行う方向で進める必要があるのではないか。
- ・地場産業をどう農業ロボットの生産に巻き込んでいくかといった考え方を盛り込んでいただければよい。

○ 次回の予定

- ・今後も継続開催していきたい。
- ・次の日程は調整の上、ご連絡したい。